

建設環境委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和8年5月26日（火）から
令和8年5月27日（水）まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 山形県高島町 ゼロカーボン・アクションの取組について
 - (2) 宮城県仙台市
 - ① 歩行者利便増進道路「ほこみち」の取組について
 - ② 歩行者のための路肩の柔軟な活用（パークレット）について

- 3 参加者 委員長 清水 学
副委員長 坂井 えつ子
太田 宏徳
安田 けいこ
河野 麻美
水上 洋志
岸田 正義
渡辺 大三
同行 今井 哲也（環境部長）
永井 紘作（まちづくり推進課長）
随行 親里 祐一（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】 令和8年5月26日	【視察先】 山形県高島町
【視察項目】 ゼロカーボン・アクションの取組について	
【視察目的】 山形県高島町における地域密着型の地球温暖化対策（ゼロカーボン・アクション）の取組を現地視察し、歴史的背景を含めた住民意識の醸成プロセスを学ぶとともに、本市の街づくりへの環境配慮の観点から、取り入れるべきことを学ぶ。	
【事業の概要】 山形県高島町では、国の2030年度目標である2013年度比46%削減を上回る「温室効果ガス47%削減」という極めて高い数値を掲げ、先進的な地球温暖化対策を展開している。同町がこれほど高い目標を掲げ、実効性のある施策を推進できる背景には、かつて「環境首都コンテスト」へ挑戦し続けた長年の経過があるが、その根底をさらに紐解くと、戦前の青年団活動を契機とする地域主体の自主的な意識醸成に行き着く。 当時、地域の課題に若者たちが主体的に向き合い、対話と協調を通じて郷土の発展を支えた青年団活動の精神は、時代を超えて現在の環境施策にも色濃く受け継がれている。行政主導のトップダウンによる啓発に留まらず、市民一人ひとりが地球温暖化を「地域の自立と持続可能性に関わる身近な課題」として捉え、自発的に行動を起こす住民主体の土壌こそが、同町のゼロカーボン施策の最大の強みである。 この「地域を良くしようと青年たちが主導した活発な活動の歴史」は、かつて青少年センター等を中心に青年団活動が盛んであった我が小金井市の歴史的背景とも深く重なり合うものである。小金井市においても、青年団活動を通じて培われた住民主体の協働精神や地域コミュニティのつながりは、街の発展を支える貴重な財産として息づいている。高島町の事例は、そうした歴史的な市民力を単なる過去の記憶に留めるのではなく、現代の最重要課題であるカーボンゼロという環境行動へ見事にシフトさせ、昇華させた好例と言える。 現在の具体的な「ゼロカーボン・アクション」においては、行政・市民・事業者が一体となった推進体制として「環境にやさしいまちづくり推進会議」を設置。この組織を通じて地域密着型の意識啓発や仕組みづくりを徹底している。ハード面の施策としても、公共施設への太陽光発電設備の先導的な整備による再エネの地産地消モデルの構築や、家庭・事業者向け補助金制度の効果的な展開により、地域全体の再エネ普及率の底上げを図っている。 かつて同じように青年団活動が活発であった本市にとっても、歴史的な親近感を覚えるとともに、地域に眠る「市民の主体性」をいかに呼び起こし、本市の未来の街づくりや環境施策へ結びつけていくかという、住民協働のあり方において極めて示唆に富む先進事例である。	



【所感、課題等】

委員 1

全国に先駆けて有機農業に取り組んだ青年団運動を背景に、環境にやさしいまちづくり会議や温暖化対策協議会で町民と共に環境負荷軽減に取り組み、環境アドバイザーを任命してエコドライブや笑エネキャンペーン、たかはたかんきょう塾やよれはたかはた等で企画を実施し、気運の醸成を図っている。Z E B R e a d y を達成した新庁舎はじめ再エネの導入や省エネ補助金にも意欲的であり、町民の意識向上における取組は参考になった。

委員 2

平成13年に「高島町環境基本条例」を制定。環境アドバイザーによる環境教育を通じて、町民とともに温室効果ガス削減に向けた取組を進めている。また、新庁舎においても環境に配慮した設計が採用されており、本市においても参考とすべき点が多く見られた。こうした高島町の環境意識の背景には、農民詩人・星寛治に象徴される青年団活動や、農村文化への誇り、地域の自然・暮らしを大切に作る風土があることがうかがえた。

委員 3

有機農業の先進地としての歩みを基盤に町民・事業者・行政が連携したゼロカーボンの取組が進められていた。環境アドバイザーの任命やたかはたかんきょう塾等の開催を通じ、地域ぐるみで環境意識を高め、省エネや再生可能エネルギーの活用を推進。脱炭素を行政主導にとどめず、町民が環境問題を自分事として捉え、行動につながられる仕組みづくりが進められており、持続可能なまちづくりの視点から大変参考になった。

委員 4

有機農業発祥の地とのことで、環境問題に関心のある町民の発意・提案が「ゼロカーボン」推進の力のひとつであり、環境アドバイザーの設置など町民を主体とした取組は重要だと感じた。エコドライブ、ゼロカーボン・アクションなど町民の環境の啓発・学習を支援していることは本市の取組にも参考になると感じた。電気契約の工夫で生み出した財源を基金として活用することなど、職員のモチベーションにもつながるもので勉強になった。

委員 5

高島町では、「温室効果ガス47%削減」という極めて高い数値を掲げ、先進的な地球温暖化対策に向けて取組を進めている。また、取組のきっかけが、本市にも深い関係がある青年団活動から発し、移り住んできた皆さんが有機農業を進めて、今の意識醸成につながっているという、まさに視察でお伺いしなければ聞くことができない内容を学ぶことができた。私たちも、行政や議会の押し付けではなく、市民発の活動を後押ししていきたい。

委員 6

地球温暖化対策というと、市民の立場からすると、規模が大きすぎて自分に何ができるのかわからないという声を聞くが、高島町では、「小さく楽しくあたりまえ」や「快適なのに省エネ」などのキャッチフレーズを掲げながら取り組んでおり、この言葉のチョイスが素晴らしいと思った。高島町の歴史を遡ると、戦後の青年団活動が盛んだったことがあるそうだ。小金井市でも下村湖人、浴恩館の歴史があるので身近に感じた。

委員 7

高島町の環境対策が先進的なわけは、全職員対象に環境に関する研修を毎年実施し、職員の意識が非常に高いことが大きい。背景には有機農業への取組の歴史があり、活発な地域青

年活動があったことは、小金井市での青年団活動と通じるものがある。地域に根差した地道な取組を次世代に繋げなければという思いが職員から伝わってきた。新庁舎はZ E B R e a d yを実現。環境問題への職員の意識が大きく政策に影響すると感じた。

委員 8

さまざまな事業展開がなされているが、私が注目したのは、自動車のドライバーを対象としたエコドライブチャレンジ教習会だった。走行距離、給油量（給電料）を記録するのは、人間のダイエットで毎日体重計に乗るのと同じで、効果的であると思う。小金井市においても、楽しみながら記録を続けられるノートなどを作成、配布し、また、効果的なエコドライブ講習会などを公園でのイベントに合わせて開催してみても良いと思う。

視 察 概 要

【視察日程】 令和8年5月27日

【視察先】 宮城県仙台市

【視察項目】 ① 歩行者利便増進道路「ほこみち」の取組について
② 歩行者のための路肩の柔軟な活用（パークレット）について

【視察目的】

宮城県仙台市の歩行者中心の道路空間利活用（ほこみち・パークレット）の先進事例を現地視察し、市民や協議会主体の空間づくりのプロセスや、緑豊かな街路樹と融合した歩道活用の実際を学ぶ。これにより、本市の街づくりにおいて、賑わい創出や歩行者利便向上の観点から「ほこみち」制度や公民連携の手法を柔軟に活用・還元することを目的とする。

【事業の概要】

宮城県仙台市では、「車中心から人中心の街づくり」への転換を掲げ、都市整備局、経済局、まちづくり政策局、交通局などの局を超えた横断的な連携体制のもと、道路空間の柔軟な利活用を進めている。

具体的には、定禅寺通エリア等において、道路法に基づく「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度を先進的に導入。単に歩道を拡幅するだけでなく、地元の活性化検討会、行政、まちづくり専門家、民間事業者が協働する「定禅寺通エリア公共空間利活用プロジェクト」を立ち上げ、十分な予算を確保しながら検討を重ねている。あわせて、道路の路肩や駐車帯のスペースを木製デッキやベンチなどで装飾し、歩行者のための憩い・滞留空間へと変える「パークレット」の設置運用も一体的な施策として展開している。

同事業の最大の強みであり特徴は、行政主導によるトップダウンの押し付けではなく、あくまで地元市民や関係事業者、民間協議会が主体となって策定した「エリアビジョン」を根底に置き、丁寧な対話を重ねながら住民主体で進めてきたプロセスにある。今回の現地視察では、美しく並ぶけやきの街路樹の下、心が穏やかになるような緑豊かな環境において、緑道そのものを歩道やパークレット空間として贅沢に利活用しているエリアを実際に散策した。そこでは、行政と市民、民間事業者が共通のビジョンを持ち、それぞれの役割を果たすことで、ただの通路であった道路が、市民が心地よく滞留し、沿道の賑わいが滲み出す「都市の魅力的なりビング」へと見事に生まれ変わっていた。

この市民主体のプロセスと、緑を活かしたウォークブルな空間づくりは、都市の規模こそ違えど、我が小金井市においても大いに応用可能である。駅前広場や主要な歩道空間をただの通路とせず、公民連携のもとで「ほこみち」やパークレットを柔軟に活用し、市民が主役となる憩いと賑わいの場を創出していくための極めて示唆に富む先進事例である。



【所感、課題等】

委員 1

地元関係者を中心にした活性化検討会で議論を重ね、大小の社会実証実験を通じて歩行空間の利活用のイメージや機運を醸成してエリアまちづくりビジョンを策定したうえで、市民主体のエリアマネジメントを始動させ、行政は黒子役として連携している。大通りだけではなく、幅員5m程度の脇道である横丁にもほこみち制度を適用して大通りとの回遊性を高め、まちづくり団体が企画管理している点は大いに参考にすべき特筆事例である。

委員 2

仙台駅周辺に人流が偏っていることから、庁舎周辺の定禅寺通エリアにおいて、居心地が良く、歩きたくなる空間づくりを進めている。定禅寺通では、街路樹による豊かな緑陰空間が形成されており、自然と調和した景観づくりがなされている。市民主体のエリアマネジメントによる活発なまちづくりの様子を伺い、行政が市民による自主的なエリアブランディングや賑わい創出を後押ししている点は、本市においても参考になると感じた。

委員 3

行政が一方的に進めたのではなく、地元の方々が「自分たちの街をどうしたいか」を主体的に考え、社会実験を重ねて合意形成を積み重ね、まちづくりビジョンを策定し、ほこみち整備に繋がった点が印象的だった。市民主体のエリアマネジメントのもと大通りだけでなく横丁にも制度を活用し、回遊性向上につなげている点も特徴的で、にぎわいの創出に加え、居心地のよい公共空間づくりや回遊性向上を目指す取組は大変参考になった。

委員 4

「杜の都」にふさわしい緑豊かな街づくりが進められていると感じた。「まちづくり協議会」が各地域で自主的につくられていること、まちづくり団体が旺盛に活動していることなど、街づくりが市民主体で行われていることは学ぶ点があった。市と市民、民間との連携・協働が街づくりに貫かれていることは参考にしていく必要があると感じた。「ほこみち」指定に関する事など今後の市の施策に生かしていけるものだと思う。

委員 5

仙台市においても新たな街づくりを行政主導ではなく、地元の皆さんが自分事として、自分の街を盛り上げたいという思いが、行政も民間も動かし、今の街づくりが進められていることが、大きな収穫であった。本市は協議会が立ち上がると行政主導になりがちであり、小金井市と仙台市では道路幅が違うので、持ち帰ることは、政策の形成過程と決めていたが、職員さんが笑顔で生き生きと説明している姿を、本市にも持ち帰りたいと思った。

委員 6

地元の要請で、ほこみちに指定したと聞いた。市民の主体性が高く「自分ごと」として捉えており、市は伴走する立ち位置で、合意形成を丁寧にしてきたとのこと。戦後の復興の中の区画整理で定禅寺通が太い道路になり、市民活動が定禅寺通から始まっているという話も印象的だった。また、定禅寺通のけやきは大きさを保つように管理しているようで、憩いの場となるには緑陰が大きい要素と思う。「樹冠被覆率」について研究したい。

委員 7

定禅寺通を視察し、大きなケヤキ並木に心地よい風が吹き、その下に人々の交流が生まれるという取組を実感することが出来た。沿道の店舗で構成された会員が設置しているというテーブルセットに座りたくなるのは緑陰があるからこそ。ほこみちの取組の主役は地域

の人であり、行政は地域の人が動きやすい環境を整えることに徹しているとの話は興味深かった。ほこみちを設定することで街中が公園のような包摂的な場所になると感じた。

委員 8

仙台市で新聞記者をしていた頃、定禅寺通はよく歩いていた。定禅寺通が、車道を狭めて歩行者スペースを広くし、さらに魅力を向上させており感慨深いものがあった。今回は未完成時点での視察であったが、3年後には事業も完成し、定禅寺通に隣接する市役所も新庁舎に切り替わっていることから、ぜひ再訪したい。今後注目されるのは、生み出された歩行者スペースでのイベント等の構築、沿道飲食店のテラス機能、またその連動である。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 443,680円

〈内 訳〉 委員旅費	@49,020円	×8人	=	<u>392,160円</u>
1人当たり旅費		交通費		29,820円
		宿泊費		13,600円
		日 当		5,600円
職員旅費	@47,020円	×1人	=	<u>47,020円</u>
1人当たり旅費		交通費		29,820円
		宿泊費		13,600円
		日 当		3,600円
行政視察負担金				4,500円

2 執 行 額 437,040円

〈内 訳〉	交通費	261,740円
	宿泊費	122,400円
	日 当	48,400円
	行政視察負担金	4,500円

3 差 引 残 6,640円

※ タクシー代金について、予定より利用台数が減ったことにより残額が生じた。